



大野市教育委員会たより

令和元年10月11日発行 第26号

発行 大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086 大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827 Fax0779-69-9110
E-mail kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：10月3日（木）午後7時～8時45分 次第 ・1部 子育て講演（講師：久保教育長）
場 所：いなほこども園（いなやまこども園・いなほこども園合同） ・2部 意見交換
対象者：こども園保護者（5人）・保育士（20人）

※以下は、「2部 意見交換」で保護者の皆さまと意見交換させていただいた『主な内容』です。

※保護者からの意見を○、教育委員会の意見を■で表示しています。

- ◎計画の見直しにより、令和5年度に中学校、令和8年度に小学校を再編するというスタート時期も変わるのか。
 - ⇒ ■変わる可能性はある。時期も含めて見直しをしていく。
 - ⇒ ○見直しによる新しい再編計画が出来たとして、令和5年度にスタートできるのか。自分の子どもが小学校に在学中に再編が関係するのかが気になる。
 - ⇒ ■再編する校数と再編時期、新築にするかどうかの方法を見直ししていきたい。子どもの数が減少していることで、なんらかの再編は必要であると考えている。ある程度の人数による教育環境を整えていきたい。
- ◎学校が1つになると通学時間が気になる。朝早く起きて準備をするのが大変である。再編により、学校の始まる時間などは変わらないのか。帰りの時刻はどれくらいか。
 - ⇒ ■小学校は8時頃から朝の会を行っている。帰りの時刻は低学年（1・2年生）は5時間目が終わると午後3時頃、3年生以上は6時間目まで授業を行い、午後4時頃となる。
 - ⇒ ■始業時間を遅らせることの検討も必要かもしれないが、まずは学校と家との距離やバスの送迎・便数なども含めて、慎重に計画していかなければならない。
- ◎生まれてくる子どもの数が本当に少ないので、学校には人数がある程度いた方がいいと思う。小規模の学校の良さを知らないが、個人的にそう思っている。
 - ⇒ ■大きい学校で過ごされたのか。
 - ⇒ ○小学校は30人、3クラス、中学校は30～40人、6クラス、高校は40人、9クラスだった。複式学級や1学年1クラスという環境ではなかった。1人1人のつながりはなかった。学校を維持していくためには、学校が1つや2つになっていくことは仕方ないと思っている。
 - ⇒ ■市内の小学校は、昔は1学年3学級が多かったが、現在は2学級の小学校は3校、1学級の小学校は3校、複式学級の小学校は4校である。市内の学校同士、子ども同士の交流をしながら教育を行っている。予想以上に子どもが減っている。
- ◎小学校にまだ入学していないが、学校が遠くなったら、登下校が心配になる。
 - ⇒ ■小学校で最も長い距離を歩いている子どもでは、上庄小を例にすると3～4キロは歩いていると思う。冬に子ども達が歩いて登校してくると、汗をかき、その汗が凍り、太陽の光を浴びキラキラ輝いている。雨の日の集団登校では、上級生は自分が濡れながらも下級生が濡れないように傘を差してあげている。また、集団で歩いているため、車の運転手が気が付きやすい。スクールバスになった場合も乗車マナーや譲り合いなどの心のマナーを教育をしていく必要がある。
- ◎通学のルートや集合場所などの話は、再編が進む中でどのタイミングで検討されるのか。
 - ⇒ ■今年は意見の聞き取りを中心に取り組み、とりまとめていくこととしている。来年度では再編計画の見直し（案）を作っていく。その際に、スクールバスの便数やルート、地域の関係性など詳細な部分までは決められないが、ある程度案を示すことになると思う。計画を策定した後、さらに内容を具体的に検討していく組織を設置していくこととなる。
- ◎小学校を複式学級で受けていた子どもが、大きい中学校に入った時の状況はどうか。また勉強面でも小規模校の子どもはどうか。地域に学校がないとますます過疎化すると感じている。大規模校、小規模校のメリット、デメリットはどうか。
 - ⇒ ■小さい小学校から大きい中学校へ来た子ども達については、全教職員が配慮している。クラス分けでは1人ではなく、2～3人を同じクラスにしている。子ども本人は大きい中学校にスムーズに順応していると感じている。
 - ⇒ ■これまでの意見交換会における保護者の意見では、小規模校の子ども達は発表する機会が多いため、中学校に来て物怖じすることなく意見を言っているとのことである。
 - ⇒ ■1学年に2学級以上ある小学校のメリットの1つとして、クラス替えがある。折り合いがうまくいかない

友だちとクラス替えにより、関係性が一旦リセットできたり、友だちの層が広がったりする。またクラス同士の競争が出てくる。その他、1学年に教職員が2人となるため、お互いに授業の進め方や教材研究などで相談や情報共有ができ、教職員同士が能力を高め合うことができる。複式学級では、それぞれの子どもが必ず発表する機会などがあるが、団体で何かをしようとする時は支障が出るなどの課題がある。

- ◎学校再編は通学の問題などデメリットが多いため、反対される人が多い。再編になった時の学校のメリットは。
 - ⇒ ■通学に時間が掛かってしまう子ども達には負担をかけてしまうことになり、しっかり考えていかなければならない。現在の学校の授業は変わってきている。高度成長時代は、まじめでコツコツと一生懸命やる人材が求められてきた。今後もそのような人材は必要であるが、これからは、自分の考えをしっかり持ち、話し合いで他の人の意見も聞きながら、自分の考えを発言し、結論を導いていく力もさらに必要となってくる。学校の授業もこのような能力を養えるように変わってきている。
- ◎昨年、一昨年の出生数が200人を切り、こども園から小学校へ子どもを送り出していくことを考えると少子化は本当に悩ましい問題である。10年後、高校も奥越地区に1つでいいという状況になりかねない。危機意識を持たないといけない。大野市は環境が良いと感情的に言うのではなく、客観的に問題をつかみながら意見を言う必要があると思っている。
- ◎自分は中学校で吹奏楽部だった。尚徳中の吹奏楽部がなくなり、上庄中の吹奏楽部が小さくなり、夏休みに行われる「真夏の吹奏楽祭」が今年からなくなった。部活動を一生懸命してきたので寂しい。中学校では陽明中と吹奏楽で競い合っていたので、学校再編で中学校が1つになると競争が出来なくなり、今後学校がどうなるのか不安である。自分が楽しいと思っていたことを子どもにもさせていきたい。
 - ⇒ ■陽明中でもサッカー部や野球部が成り立たない状況である。部活動が選べない状況となり、学校だけでニーズを満たせなくなっている。野球やトランポリン、スイミング、空手、柔道など学校外のクラブや教室で、自分のやりたいことをしてもらおうようになってきている。陽明中では週3回以上、学校外のクラブなどに通う場合は、学校の部活動に所属しなくても良いとしている。
 - ⇒ ■意見交換会でも部活動で競争する学校がなくなるので、中学校は複数あった方が良いという意見があった。他にも、これからは市をまたいだ交流や競争の時代であるという意見もあった。
 - ⇒ ■小学校の各種のスポーツ少年団も子どもが少ないため1つの学校で成り立たない状況となっている。学校単位でなく市全体で、スポーツや文化活動が出来る環境を考えていかなければならない状況となっている。
- ◎他の市町で行っている学校再編の事例を参考に大野市で行おうとしているのか。学校再編で大野で生活することを心配し、市外へ出ようかと考えている者もいる。市外へ引越ししようとする者も出てくると想定した上での計画なのか。再編することで、人口減少にどこまで影響するかを把握しているのか。
 - ⇒ ■中学校1校、小学校2校となる計画に対して、そのように不安を持っている方が少なくないと感じている。ある程度の規模による教育環境を整えていきたい。再編することで、情報化時代に対応した教育環境の整備が可能となるなどの理由から再編計画が検討された。他の市町で行っている学校再編の方法を見てきているが、地域の実情に合わせ、いろいろなパターンがある。どこかの再編パターンを大野へ単純に持ち込むことは出来ない。あくまで参考としている。大野の学校再編は、大野に住む者が一生懸命考えるしかない。今日の意見交換会も市のホームページに掲載したり、こども園の方には紙媒体で配布する。情報公開しながら、みんなで考えられるようにしていきたい。(平成16年度からの再編計画の取組み経過を説明する。)
- ◎子どもが小学校にいるが、少人数の中で見てもらっている。また放課後子ども教室で地域の方が見てくれて感謝している。市街地に学校が再編されると村部に誰も住みたくなくなると思う。住みたくないようにして欲しい。
 - ⇒ ■再編を行った場合、学校に代わる活動の拠点は考えていかなければならない。またIターン・Uターンからの呼び込みも考えなければならない。
 - ⇒ ■子ども達にとってより良い環境で、学校生活を幸せに送れることをまずは考えていきたい。
- ◎昔は、幼保小の連携を一生懸命行っていた。しかし、今年に入り、幼保小の交流活動が1つ減り、学校の教職員の保育体験もなくなった。学校側からは「忙しい」という理由をはっきり言われた。これまでモデル園として積み上げてきた連携がなくなり、寂しく感じている。年々、気がかりな子は増えている。小学校への受け渡しをどうすれば良いかととても悩んでいる。小学校の授業開放日に参加した時、落ち着きがない、先生の話听不懂の子が多いことにびっくりした。学校の教職員は忙しくて時間がないのは理解できるが、幼保小の連携が崩れてきている感じがする。学校は、義務でやっている感がある。
 - ⇒ ■20年前から、幼保小の連携が必要であるとして取り組んできた。今は国がこの連携を制度化しており、大変心強く思っている。現状をしっかり把握し対応していきたい。



お忙しい中、ご出席いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本日より、大野市ホームページにも掲載を予定しています。

